

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

指導室

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち 基本目標(4) 安心・安全で賑わいあるまち						
①教育						
主な重要業績評価指標 (KPI)	学校満足度調査「学校は楽しい・どちらかといえば楽しい」と回答した児童生徒の割合					
	積算方法	年度末に行う学校評価における基礎資料となる児童生徒アンケートから積算				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	90% (R6年度)	91%	92%	93%	94%	95%
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		90%				
	目標値の変更	目標値を達成したため、さらに高い目標値に変更を行う。				
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	学校評価アンケートは年2回実施し、1回目と2回目の結果を比較することができます。普段の様子や教育相談等を実施し、不安等を解消できるように対応しました。また、必要に応じてカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携しました。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	引き続き、満足度を高める取組と並行して、残り10%の児童生徒の不満とされる部分への対応が必要です。アンケートは、すべての児童生徒が対象であり、結果を受けて、課題把握と課題解決に向けて取組を充実させて行く必要があります。年2回のアンケートの実施を通して、個々の児童生徒の状況把握が可能ですので、教育相談等を通して、取組を充実させて行きます。				
	推進本部会議で出た意見等	「学校は楽しい・どちらかといえば楽しい」と回答していない残り10%の生徒への対応を充実させて欲しい。				
有識者会議での外部評価	(質) 残りの10%は人数でいうと何人程度か。対応の内容についても知りたい。 (答) 人数は500人程度。対応内容は、人材育成を含めた授業内容の改善、先生・友達との関係改善、できないことのサポート等、自己有用感の向上に努めている。 (質) 子どもたちにとっては、授業以外のことが大切なのではないか。 (答) 小学生においては授業の楽しさも大切。中学生になるとほかの要素も大きくなるとみている。子どもたちが問題意識を持ち、解決に導けるような授業づくりが大切と考えている。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

土木課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち

②スポーツ・文化ツーリズム

主な重要業績評価指標 (KPI)	長井浜公園 年間施設利用者数					
	積算方法	年間施設利用者から算出				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	48,149人 (R6年度)	46,000人	47,000人	48,000人	49,000人	50,000人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		49,858人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	指定管理者の自主事業である体験型宿泊研修施設そらすな(ダイニングやパンの販売を含む)を活用した取り組みやSNSでの情報発信に力を入れ、宿泊・飲食目的の利用者の増加を図った。また、海岸や砂浜を活用したイベントを複数回開催するとともに、公園や芝、施設を常に整備された状態を維持することで、利用者の満足度を向上させ、リピーターの獲得を目指した。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	課題としては、地球温暖化の影響から、夏季が猛暑を超え酷暑に近づいており、外出者の減少から利用者数の減少が懸念される。また、スポーツイベント等が開催された際には、駐車台数が足りない状況となっており、来場者を制限するなど対策をとっているが、一般の公園利用者が利用しづらい状態になっている。 SNSでの情報発信を強化するとともに、そらすなを含めた冬季の公園と利用促進を行う。また駐車場不足については、園外駐車場の利用を含めた対策を強化し、利用者の満足度を高める運営を行う。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	なし				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 商業観光課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち 基本目標(4) 安心・安全で賑わいあるまち						
②スポーツ・文化ツーリズム			②地域振興			
主な重要業績評価指標 (KPI)	観光パンフレット配架数					
	積算方法	観光ブランド推進係によるパンフレット配架・配布数の合計値				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	3,500部 (R6年度)	5,000部	累計 10,000部 (年度5,000部)	累計 15,000部 (年度5,000部)	累計 20,000部 (年度5,000部)	累計 25,000部 (年度5,000部)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		8,405部				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	パンフレット配架は、北九州空港やJR行橋駅、今川パーキングエリアや市役所窓口などで年度を通して実施した。また配布については、大規模イベント時(築城基地航空祭、日産新浜祭等)のPR配布活動や、県・関係団体等への送付及び提供等により、積極的に推進したことで、目標値を上回ることに繋がった。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	今後については、令和7年度末に作成が完了した総合版観光パンフレット「ようこそ、行橋へ。」(2万部作成)の配架・配布を重点的に実施していく。既存のパンフレットについては、掲載内容の見直しや残数の状況を的確に反映して、更新・増刷を計画的に実施していきたい。				
推進本部会議で出た意見等	(意)KPIを「観光パンフレット配架数」から「観光パンフレット配布数」に修正することを有識者会議に諮りたい。					
有識者会議での外部評価	(意)配架数より配布数が重要、KPIの変更についても問題ない考える。 (質)KPIを配布数に変更することは良いが、一方で配架場所の情報も重要ではないか。 (答)配架場所とその数についても今後は報告することを検討します。 結論:KPIを「観光パンフレット配架数」から「観光パンフレット配布数」に変更する。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち

③移住・定住

主な重要業績評価指標 (KPI)	行橋市への移住者数(京築除く)					
	積算方法	各年年度の住民基本台帳ベースでの 転入数－転出(京築除く)				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	累計262人 (R6年度)	累計 65人	累計 130人	累計 195人	累計 260人	累計 325人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計 21人				
	目標値の変更	変更なし				
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	(転入) 【全国】 3,419人 【京築除く】 2,674人 (転出) 3,152人 2,653人 (増減) 267人 21人 全国の移住情報が掲載されているポータルサイトに掲載をしてもらっている。東京交通会館内にあるふるさと回帰センターへ訪問し、行橋市の現状について説明し、移住希望者に対してのPRを依頼した。				
事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	実際に移住を検討している方向けのパンフレット・動画作成を令和8年度に実施している。 R8年度から実施する移住視察助成金のニーズを把握するとともに、移住助成金の導入も検討する。					
推進本部会議で出た意見等	(意)「京築を除く」データは分析としては必要だが、人口の社会増を目標とするのであれば目標値に据える必要はないのではないかと。京築地域も含めた全体の移住者数をKPIに変更するのはどうか、有識者会議に諮って欲しい。					
有識者会議での外部評価	(意)KPIの変更は問題ないが、京築地域からの移住のデータは実績として報告してほしい。 (質)全国からの移住者を増やす努力はしているのか。 (答)第3次から力を入れており、首都圏での移住促進イベント参加等の機会を増やしている。 (質)移住支援金の話があったが、本支援金の移住の定義は何か。 (答)対象は東京圏からの移住者に絞っている。今年度の結果を見て範囲の拡大を検討する。 (質)移住支援金はUターンも対象か。 (答)Uターンも対象だが、行橋市内での相談会参加などの諸条件はあります。 結論:KPIを京築地域も含めた全体の移住者数に変更する。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 農林水産課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち						
④農産物・水産物の開発・高付加価値化						
主な重要業績評価指標 (KPI)	新規就農者数					
	積算方法	行橋市新規就農者育成総合対策経営開始資金交付要綱に基づく新規就農者育成総合対策資金(経営開始型)を受給した者の数(積算累計値)				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	累計18人 (R6年度)	累計22人	累計22人	累計22人	累計22人	累計22人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計19人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	新規就農に関する相談は計6件(市:6件)ありまして、交付要件を満たす新規就農者が1名いました。 また、他5名につきましては直接の新規就農にまではつながりませんでしたが、就農希望者の意欲と理解を促進することになりました。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	受給には、現状と目標(5年後)を定めた就農計画を提出し市からの認定を受ける必要があります。目標年に、年間農業所得300万程度(給付金を除く)、年間総労働時間2,000時間程度を認定基準としており、目標の達成及び資金交付終了後の就農のステップアップが難しいものとなっています。今後も就農計画の目標達成に向け、市・県・JA等のサポートを引き続き行っていきます。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	なし				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課・商業観光課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち						
④農産物・水産物の開発・高付加価値化						
主な重要業績評価指標 (KPI)	新規商品開発数					
	積算方法	市内の農産物・水産物を活用した新規商品の開発数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	新規	累計 1件	累計 2件	累計 3件	累計 4件	累計 5件
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		1件				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	株式会社結わえる、アグリプロ株式会社と協働し、行橋市産の米を使用したパックごはん「寝かせ玄米」を開発した。本商品は行橋市産の米が使用されていることがわかるオリジナルパッケージになっており、市内や、ふるさと納税返礼品として販売している。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	開発済の「寝かせ玄米」については、ふるさと納税返礼品としての販売拡大が課題となっているため、今秋以降のシティプロモーションイベントでPRに力を入れ、ふるさと納税返礼品を中心とし、市外での販売数向上に努める。 今後の新規商品開発については、総合政策課・商業観光課で協力して進める。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	なし				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

文化課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち

⑤まちなか活性化

主な重要業績評価指標 (KPI)	美術館特別展来館者数					
	積算方法	行橋市増田美術館で開催される特別展の来館者数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	1,012人 (R6年度)	1,100人	1,200人	1,300人	1,400人	1,500人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		3,486人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	福岡県出身で大分市在住の著名アーティスト・北村直登氏の展覧会を開催した。同氏はSNS(Instagram、YouTube、TikTok)のフォロワー数が各10万人を超えるなど若年層を中心に高い発信力を有しており、市外からの誘客を含めた広範な集客効果を見込んで企画した。なお、丁寧な条件交渉により、当初想定よりも大幅に予算を抑制して実施することができた。 目標指数は、過去3ヶ年の平均値×10%としていたが、大幅超過となった。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	【今後の課題】 本事業により、著名なアーティストを起用した特別展は市外からも誘客効果があることが実証された。一方で、開催期間や作家のターゲット層によって来館者数に変動が生じる(一律の右肩上がりとはならない)点が課題である。また、予算確保やアーティスト側との条件調整も大きな要素となる。 【今後の取り組み】 今後は、来館者の潜在ニーズを綿密に調査・分析し、特別展の企画・実施体制の見直しを図る。また、今回の特別展を機に美術館公式Instagramのフォロワー数が大幅に増加したため、このデジタル基盤を有効に活用した情報発信を継続し、リピーターの確保と安定した来館者数の増加に繋げていく。				
推進本部会議で出た意見等	(質) 目標値が消極的なのではないか。 (答) 文化芸術関連の催しは来客数の見通しが立てにくい。令和8年度の実績を見て再考する。					
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 生涯学習課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち						
⑤まちなか活性化						
主な重要業績評価指標 (KPI)	図書館(複合施設)の来館者数					
	積算方法	来館者数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	241,894人 (R6年度)	来館者 250,000人 図書館貸出者 133,000人 託児施設利用者 4,700人	来館者 251,000人 図書館貸出者 133,000人 託児施設利用者 4,700人	来館者 252,000人 図書館貸出者 133,000人 託児施設利用者 4,700人	来館者 253,000人 図書館貸出者 133,000人 託児施設利用者 4,700人	来館者 254,000人 図書館貸出者 133,000人 託児施設利用者 4,700人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		来館者 241,345人 図書館貸出者 121,606人 託児施設利用者 4,631人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	リブリオ行橋で市政70周年記念事業等様々なイベント・講座を開催したことにより、令和6年11月に来館者数100万人を突破しました。令和7年度は普段図書館を利用しない方にも興味を持っていただけるよう、行橋駅前イベントを行い、図書館まで一緒に歩いてもらうフットパスを行ったり、リブリオ行橋でマリンバの演奏を行ったりして、リブリオ行橋の魅力を伝える取り組みを行いました。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	令和7年度中、行橋市直営の子どもの遊び場ができたり、近隣自治体に新しい図書館ができたりしたことで、令和7年度のリブリオ行橋来館者数は、令和6年度実績値(246,088人)を下回りました。令和8年度も様々な事業を計画し、リブリオ行橋の情報発信をすることにより、利用者の増に繋がるよう取り組みます。また、図書の貸出者数は全国的に減少傾向であり、本市でも減少しているため、読書活動の推進に取り組みます。				
推進本部会議で出た意見等	なし					
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

総合政策課

基本目標(1) 楽しく豊かに暮らせるまち

⑥就労支援

主な重要業績評価指標 (KPI)	ワーク・ライフ・バランスの啓発(セミナー回数・参加人数)					
	積算方法	セミナー回数・参加人数の累計値				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	年5回 162人 (R6年度)	年6回 180人	年6回 180人	年6回 180人	年6回 180人	年6回 180人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		2回 32人				
	目標値の変更	変更なし				
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	女性活躍推進の観点から、仕事と家庭の両立についての講演を2回開催した。募集人数を超える申込みがあり、参加者からの評判は大変好評であった。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	市民のニーズを的確に把握し、どのような内容・時間帯で講座を行うべきかを継続して検討していく必要がある。また、講座の開催の発信方法についても工夫していきたい。 同事業の中で実施する他の講座との開催割合もあるため、今後KPIの見直しと講座の開催回数等を検討する。				
推進本部会議で出た意見等	(質)回数、参加人数ともに達成できていない要因は何か。 (答)る～ぶるではワークライフバランスセミナーと、エンパワーメント講座を併行して行っており、年度によって開催回数に偏りが出てしまう。この両方の開催回数と参加人数をKPIとできないか、有識者会議に諮りたい。(R7実績:8回・139人) (要)講座の内容が目標に沿ったものになるように留意して欲しい。 (答)所管課でも昨年度の反省点と感想、今年度より改善している。					
有識者会議での外部評価	(質)エンパワーメント講座の内容は、ワークライフバランスセミナーに含めても問題ない内容か。 (答)はい、問題ありません。 結論:KPIを、ワークライフバランスセミナーと、エンパワーメント講座、両方の開催回数と参加人数に変更する。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

指導室

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

①教育

主な重要業績評価指標 (KPI)	学校満足度調査「学校は安全に学べる環境であると思う・どちらかと言えばそう思う」と回答した保護者の割合					
	積算方法	年度末に行う学校評価における基礎資料となる保護者アンケート結果から積算				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	91% (R6年度)	95%	95%	95%	95%	95%
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		92%				
	目標値の変更	近年の実績としては90%前後ですが、学校は、安全・安心が基本であると考えため、R6に設定した95%を目標値として継続します。				
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	年2回「学校評価アンケート」を保護者に実施し、保護者対象にアンケートを実施しました。回答率を上げるために児童生徒が使用しているipadを活用したり、保護者用(安全・安心)メールを活用して、保護者への周知を行いました。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	スクールカウンセラーの活用内容及び方法について、今後、保護者にさらに分かりやすく周知する必要があると考えます。				
推進本部会議で出た意見等	なし					
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

指導室

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

①教育

主な重要業績評価指標 (KPI)	いじめ・不登校等の予防対策を実践する学校数					
	積算方法	市内17校中の実施校数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	全小中学校 (R6年度)	全小中学校	全小中学校	全小中学校	全小中学校	全小中学校
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		全小中学校				
	目標値の変更	各学校は、いじめや不登校などの未然防止や対応、支援の方策等について話し合う委員会や研修を、年間を通して計画的に、臨時的に開催しているため、目標値の文言を「全小中学校」としました。				
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	市主催の管理職研修会や担当者研修会を定期的に開催し、いじめや不登校等への対応、支援に関する研修を実施しました。また、QU調査を年2回実施し、児童生徒の生活満足度等の調査を行い、調査実施後は、大学教授を講師として活用した研修を実施できるようにしました。他にも、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家を活用し、各種相談や家庭訪問、研修等も実施しました。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	いじめ・不登校については、未然防止や、早期発見・早期対応が重要です。今後も、児童生徒・保護者・学校の困り感やニーズに応じて、さらに研修内容を充実させるとともに、外部の専門家等を積極的に活用し、未然防止及び早期発見・早期対応に取り組んでまいります。				
推進本部会議で出た意見等	なし					
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 総合政策課

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち						
②結婚						
主な重要業績評価指標 (KPI)	出会いイベント参加者数					
	積算方法	出会いイベント参加者数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	68人 (R6年度)	50人	50人	50人	50人	50人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		36人				
	目標値の変更	変更なし				
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	福岡県出会い応援団体に登録し、県出会い・結婚応援事務局と連携しイベントを開催した。 ○4/19 魅力度アップコン(赤レンガ館) 12人参加 2組成立 ○10/18 ビーチサイドBBQコン(ここのえ牧場)24人参加 4組成立				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	福岡県出会い・結婚応援事務局と連携しイベントを開催してきたが、県の方針変更により連携し開催できる回数が制限されることが決定された。 市独自で開催することや、企業との連携も視野に入れて開催方法を再検討する必要がある。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
有識者会議での外部評価	(質)参加者の年齢制限が厳しいのではないかと。 (答)少子化対策かつ、年齢差が大きすぎると人が集まらないので年齢層を寄せて開催している。県の支援が受けられない現状もあるので、参加者の年齢層については今後検討したい。 (意)定住人口増の観点からも、柔軟に考えてほしい。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

③出産・子育て

主な重要業績評価指標 (KPI)	3月1日時点での待機児童数					
	積算方法	各年度3月1日時点での待機児童数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	117人 (R6年度)	90人	90人	90人	90人	90人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		109人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	・保育コンシェルジュが保護者へ希望以外の園を案内し、待機児童の減少に努めています。 ・R7年度は2園が定員数を減らし、小規模保育施設1園が閉園したため、定員数が合計で63名減少となっています。 ・R7年度の実績109人のうち、4人は私的待機で、国が定義する待機児童は105名でした。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	全ての市内園において、その年齢の園児の受入れが出来ない状態となると、私的待機の理由であっても待機児童となります。また、利用定員に達していなくても保育士不足により児童が受入れられない園も見受けられ、待機児童対策には保育士の確保が必要です。引き続き、保育士の処遇改善を図るための施策に併せて新たな保育士確保のための施策に取り組みます。				
推進本部会議で出た意見等	なし					
有識者会議での外部評価	(質)近い保育園を希望している方が多いと推察されるが、遠くの園を案内する際、送迎などはどう対応しているのか。 (答)場所より内容で選んでる傾向がある。送迎は親が行うか園のサービスを利用してもらっているため、市での支援はしていない。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

③出産・子育て

主な重要業績評価指標 (KPI)	新規の子どもの居場所(遊び場)設置数					
	積算方法	子どもの遊び場の確保数(新規設置)				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	累計1か所 (R6年度)	累計 2か所	累計 2か所	累計 2か所	累計 2か所	累計 2か所
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計 1か所				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	令和8年3月20日に、室内型子どもの遊び場がオープンしました。 令和8年7月末までに33,803人の利用がありました。 また、令和7年度も市内にある子育て支援センター(公設:1カ所、私 設:5カ所)で組織する行橋子育て支援センター連絡協議会主催で未就 園児の親子を対象としたイベント「子育て支援フェスタ」を実施しました。 (参加親子:118組、243人)				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	室内型子どもの遊び場の開設により、天候に左右されることな く、子どもたちが安全で安心して遊べる場所の提供ができてしま した。 また、子育て支援拠点の設置について、引き続き園への声掛け を行っていきますが、保育士の配置が必要であるため、保育士 確保についての課題も発生します。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	なし				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

③出産・子育て

主な重要業績評価指標 (KPI)	ファミリーサポートセンター登録者数					
	積算方法	子育ての支援を受けたい会員と子育ての支援を行いたい会員の登録者数の総計				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	561人 (R6年度)	860人	860人	860人	860人	860人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		688人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	R7年度新規の登録者は125名(支援を受けたい:111名、支援を行う:12名、両方:2名) 支援を受けたい会員、支援を行う会員ともに、利用時にアンケートを実施しておりますが、前年度に引き続き満足度は高い結果です。また、支援を行う会員は支援後に報告書を作成し、報告書には支援を受けたい会員から支援内容等の確認サインを得て、信頼関係の構築に努めております。周知活動として、Instagramの利用、健診等でチラシを配布する、市報掲載等の活動を行いました。また、令和4年度より初回利用のハードルを下げるため、1時間無料券を配布しております。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	支援を行う会員は、支援を受けたい会員の4分の1程度であり、徐々に高齢化が始まっています。支援を行う会員数を増やしていくために、支援を受けたい会員を卒業した元会員(こどもが小学生を卒業した方)へ、支援を行う会員へ積極的に勧誘を行います。また、50代～60代層の会員の確保にも取り組みます。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	(質) 支援を受けたい人と支援をする人のマッチングはどうしているのか。 (答) 支援内容は子どもの送迎、短時間の預かりが主。マッチングは面談で確認を行い、支援の回数を重ねる中で見極めている。				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

③出産・子育て

主な重要業績評価指標 (KPI)	乳児家庭訪問数					
	積算方法	出生数に対する訪問数の割合				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	561人 (R6年度)	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		99%				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	R7年度の全対象戸数451件のうち、448件(当市で訪問444件、里帰り先の自治体に依頼4件)の世帯に訪問を実施しました。訪問できなかった3件は、未熟児にて出生し、長期入院の期間中に全戸訪問事業の対象期間(生後4か月未満)を超えたためでした。全戸訪問時に育児不安がある方や支援を必要としている方については、4か月児健診までの間に、地区担当保健師が再度訪問するなどして対応しました(実件数5件、延件数8件)。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	R5年度より母子モアアプリを活用し、全戸訪問前にアンケートに回答いただき、訪問時には子どもの出生時の様子だけでなく、母の気持ちを把握できるようになりました。今後もその情報を生かして、さらに母に寄り添った対応ができるように心がけたいと思います。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 子ども支援課・学校管理課

基本目標(2) 若者・女性にも選ばれるまち

④就労支援

主な重要業績評価指標 (KPI)	子どもの預かり制度の利用者数					
	積算方法	アンファン利用者、児童クラブ利用者 アンファン :R7 1,300人 R8 1,500人 R9 1,500人 R10 1,500人 R11 1,500人 児童クラブ :R7 12,000人 R8 12,300人 R9 12,300人 R10 12,300人 R11 12,300人				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	12, 561人 (R6年度)	13,300人	13,800人	13,800人	13,800人	13,800人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		13,541人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	【子ども支援課】1,364人 新規で入園する児童に対し てチラシを配布し、制度の 周知を行いました。		【学校管理課】 12,177人 18カ所25支援単位の運用を民間に委託して おり、民間活力(ノウハウ等)を活用し、サービ スの向上を図りました。保護者連絡用アプリ 「すぐー」等を活用して周知を行ったり、夏休 み期間中の児童受入れ強化を行ったりして利 用促進をしました。		
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	【子ども支援課】 令和5年度から利用料の無 償化が始まり、利用希望者 の増加の一因となっております。今後、利用実績の推 移によっては受け入れ定員 の見直しを検討します。		【学校管理課】 毎年利用者アンケートを行っています。各事 業者へ利用者の声をフィードバックしており、課 題等の洗い出しやサービス向上に努めまし た。今後も引き続き利用者満足度の向上を図 ります。 令和7年度も利用希望者が多く、待機児童が 発生しました。夏休み期間中の児童受入れ強 化を行う等の対策を行っています。待機児童 が発生している地区については支援単位の追 加も検討していく必要があります。		
	推進本部会議で出た意見等	(質)アンファンの利用者数をKPIとしている意図は何か。 (答)利用者数から、行橋市の病児保育の受け入れ能力を対外的に周知する意図があり ます。				
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 商業観光課

基本目標(3) 新たな価値を創出するまち

②就労・創業支援

主な重要業績評価指標 (KPI)	創業支援等事業計画による創業件数					
	積算方法	当該年度における創業支援セミナー受講者のうち、 既創業者（創業後5年未満）および新規創業者の合計				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	8件 (R6年度)	8件 (初年度)	累計16件 (内8件)	累計24件 (内8件)	累計32件 (内8件)	累計40件 (内8件)
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		5件 (初年度)				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	相談窓口を市役所商業観光課及び行橋商工会議所に設けており、伴走型の 経営指導や起業相談等を、商工会議所の経営指導員5名、補助員2名の計7名 で対応している。(平日8:30～17:00) 創業支援等事業計画による創業件数の実績値は、商工会議所において申告 があった件数。 また、創業セミナーを開催し、参加者に対し、「経営」・「財務」・「人材育成」・「販 路開拓」の4つの項目について、専門家による講座を行い、創業の支援を行っ た。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	セミナーの開催及び相談受付の周知方法が難しいことが課題。(現時 点では市報とホームページとセミナーでの紹介のみ) 商工会議所と連携し、必要な情報が起業に興味のある方へより届くよ うに協議を行っていきたい。				
推進本部会議で出た意見等	なし					
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 農林水産課

基本目標(3) 新たな価値を創出するまち

③農産物・水産物の開発・高付加価値化

主な重要業績評価指標 (KPI)	農林水産業における新規従事者					
	積算方法	6次化商品に携わる新規の従事者数(累計値)				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	累計0人 (R6年度)	累計 1人	累計 2人	累計 3人	累計 4人	累計 5人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計 0人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	農林水産業におきましては、地元の果物や水産物等を製品化に適した原料に加工する取り組みは行われておりますが、6次化の代表例となるような取り組みはありません。しかし、若手事業者の中には、生産・加工・販売までを一貫して取り組んでいる例もあり、今後支援を継続していきたいと思います。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	今後も特産品をPRする取り組みを継続しながら、売上を増加させるような、販売促進につながる取り組みが必要だと考えます。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	なし				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 農林水産課

基本目標(3) 新たな価値を創出するまち

③農産物・水産物の開発・高付加価値化

主な重要業績評価指標 (KPI)	行橋市魚市場の取扱金額					
	積算方法	公設卸売市場の年間取扱数量				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	433,417千円 (R6年度)	400,000 千円	400,000 千円	400,000 千円	450,000 千円	500,000 千円
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		378,486 千円				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	魚市場の毎月の報告で実績を出している。市場施設の維持整備 や修繕に取り組んでいるが、水産資源の減少に加え、気候変動 に伴う海水温の上昇や市場外取引の増加により取扱金額が減 少している。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	全国的に不漁が続いているが、取扱可能なものにおいては、引 き続き販路拡大により取扱金額を増やしていきたいと考えてい る。				
	推進本部会議で出た意見等	(質) 令和6年度から令和7年度で実績値が激減しているが、要因は何か。 (答) 水産資源の減少が主な要因となっている。				
有識者会議での外部評価	(質) 取扱金額の減少については、供給側以外の問題はないのか。 (答) 漁師の高齢化による減少、高く売るために遠方まで運ぶ人がいないといった問題も ある。					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

秘書課

基本目標(4) 安心・安全で賑わいあるまち

③共助社会

主な重要業績評価指標 (KPI)	市のオンライン情報活用状況					
	積算方法	①公式Instagramのフォロワー数、LINEの登録者数 ②Instagram等SNSの動画閲覧数				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	①32,865件 ②新規 (R6年度)	①36,000件 ②1,000,000回	①39,000件 ②1,000,000回	①41,000件 ②1,000,000回	①43,000件 ②1,000,000回	①45,000件 ②1,000,000回
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		①38,497件 ②3,683,406回				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	①「伝わる広報」の徹底と、HP×広報紙×SNSのハイブリッド広報による戦略的な広報活動を行った。新規施設のオープン時にはインフルエンサーを活用するなど、効果的な運用で市内外のフォロワーを着実に増やした。 ②さらに幅広い世代に市の情報や魅力を届けるため、TikTokを開設。ツールに応じた発信内容で、効果的に情報を届けた。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	SNSでの発信の影響力を全庁的に共有し、研修等を通じて「職員全員が広報担当」とであるという意識の醸成を行い、担当課によるコンテンツの充実を図ることが必要である。また、アナリティクスやアルゴリズムを研究し、ターゲットに応じたツールとコンテンツの棲み分けを確実にを行い、効果的な運用を行う。				
推進本部会議で出た意見等	なし					
有識者会議での外部評価	なし					

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課

介護保険課

基本目標(4) 安心・安全で賑わいあるまち

③共助社会

主な重要業績評価指標 (KPI)	見守りの連携企業数					
	積算方法	見守りの企業連携数の累計値				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	累計15団体 (R6年度)	累計17団体	累計18団体	累計19団体	累計20団体	累計21団体
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		累計16団体				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	令和7年度中に団体との協定締結には至りませんでした。働きかけにより令和8年4月から1団体と協定を締結することができました。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	独居高齢者が増加しており、特に男性の方が顕著です。そのことから、今後も見守り活動の必要性は高いものと思われます。そのため、今後も企業等に働きかけを実施し、協定が締結できるよう努めて参ります。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	なし				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 生涯学習課

基本目標(4) 安心・安全で賑わいあるまち

③共助社会

主な重要業績評価指標 (KPI)	椿市交流センター利用者数					
	積算方法	公民館機能部分の利用者数と小売コーナー及び カフェの利用者数の合計値				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	14,405人 (R6年度)	15,000人	15,200人	15,400人	15,600人	15,800人
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		13,961人				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	令和3年度より指定管理者制度を導入し、地域住民により組織された 法人が管理することとなった。その結果、地元とともに開催した、夏祭り やクリスマスイルミネーションなどは、多くの人で賑わい、指定管理者制 度のメリットを生かす施設の管理運営ができた。 ただし、令和8年度から指定管理者が変更となることになり、令和8年 1月から、片付け・精算作業に入ったため、目標値に達しなかった。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	指定管理者制度の導入から5年が経過し、令和8年度から、新 たな地域組織が指定管理者として、管理運営するようになった。 今後は、指導・助言を要することもあるため、自立した管理運営 を行えるよう連携を図っていく。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
	有識者会議での外部評価	(質)なぜ椿市だけKPI設定しているのか。 (答)椿市交流センターが小さな拠点づくり事業(内閣府地方創生)内で山間部の買い物 支援としての整備拠点になっている。国の補助金を活用しているため、KPIを管理する必 要がある。				

「行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に係る取組み効果・検証シート

担当課 防災危機管理室

基本目標(4) 安心・安全で賑わいあるまち						
③共助社会						
主な重要業績評価指標 (KPI)	防災知識の啓発イベント実施回数					
	積算方法	年間での啓発活動開催回数の累計値				
	基準値	R7年度 目標値	R8年度 目標値	R9年度 目標値	R10年度 目標値	R11年度 目標値
	累計44回 (R6年度)	累計30回	累計60回	累計90回	累計120回	累計150回
		実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
		19回				
	目標値の変更					
	KPI達成のために 行った事業(取り組み)	区長会や民生委員会、校長会等の機会をとらえて、防災講話の実施についてPRを行ってきた。また、市ホームページにおいて防災講話の案内を発信している。 実績としては、区長会、女性学級、小中学校等での防災講話を実施している。				
	事業の今後の課題や今後 必要と考える取り組み	各種団体に対して幅広く防災講話の等の機会を提供したい。その中で特に市内の小中学校に対して、防災意識の向上を図るための対応を強化していく。				
	推進本部会議で出た意見等	なし				
有識者会議での外部評価		(質) 防災知識の啓発イベント実施回数について、目標値と実績値を累計にしたのはなぜか。 (答) 所管課の判断だが、次年度以降必要に応じて変更したい。				